若手コーナー

若手コーナーのススメ

広報委員会委員　玉井　修

2年ほど前のこと。沖縄県医師会報に若手コーナーを作ってみては如何でしょうか？と提案したのは私です。最近ではすっかり開業顛末記になってしまった感のある若手コーナーですが、当初のねらいとはやや離れてしまった感がありますので、ここで若手コーナーの趣旨を若手の私が書いておこうと思います。初めにこの様な趣旨を掲載すれば良かったのかも知れませんが、なにぶん定着するかどうかもわからない状態でしたので今になってしまい申し訳ありません。

私自身が勤務医であった頃、そのまま外科医としてキャリアアップを続けたい自分と、組織の中で生き残る事に対する漠然とした不安があり、「このままで良いのだろうか？」という問いを毎日自分に問い続けていました。医師としてどのように生きていくべきか、自分の適性はどの方向なのだろうかと毎日問い続けていました。先日沖縄県医師会報で報告された勤務医の意識調査においても揺れ動く勤務医の心が如実に表れていましたね。

若手コーナーは本来、今まさに岐路に立っている医師たちが様々な形で意見を交換し、問題を語り合い、叱咤激励しあえるコーナーを作りたかったのが本来の趣旨でした。例えば下記のような内容はどうでしょうか。

例1：若手勤務医が本音で語る勤務医としての夢。

近年勤務医の勤務状態が過酷になっている現状があり、また産婦人科や小児科などはあまりに過酷なために社会問題とさえなっております。今後勤務医としてどのように生きていくべきなのか、どのような夢を持っていきたいかを本音で語って頂ければ嬉しいです。夢も望みもありませんなんて寂しいことは言わないでくださいね。

例2：ややベテラン勤務医が、日々忙殺される若手の勤務医へ送るエール。

新臨床研修医制度が始まりました。私たちが過去経験したような研修医は、おっかない先輩方に怒鳴られ、蹴飛ばされながら初期研修を致しました。最初から医局預かりになる研修医はプライマリ・ケアの充分な研修が系統的に経験できない可能性がある反面、先輩や同僚との強い絆が武器でもありました。医局という絆がやや希薄になった今、その絆を深める一つの手段としてこのコーナーを利用していただければ幸いです。研修医のモチベーションアップに大いに期待し、将来の良医が多く育っていく一助となる事を期待しております。

例3：離島医療にかける熱意等々。

離島医療は沖縄県の大きな課題です。離島医療を経験した医師は多くいらっしゃると思います。離島医療の現状と課題はどのようなものなのでしょうか？離島医療にかける熱意とともに、これからの課題の大きさについても是非ご意見をいただきたいと思います。

例4：開業顛末記。

最近新規開業が目立って多くなってきました。しかし、実際開業してみると多大な借金の返済や、経理業務、労務管理業務などに神経をすり減らし、思惑とは違った厳しい現実があります。最近大都市では医療圏についての配慮を欠いたビル診療所の乱立が一部の斡旋業者によって行われているような事も聞きます。開業医としての道もまた険しいものがあるようです。

上記は一例に過ぎません、岐路に立つ医師からのご寄稿、岐路に立つ医師への言葉をお待ちしています。

さて、そこで若手というクライテリアはどこからどこまでの範囲でしょうか？とのご質問が聞こえてきそうです。広報委員ではお気持ちが若ければ年齢は特に問わない事になっております。

原稿募集！　「若手コーナー」（1,500字程度）の原稿を随時、募集いたします。開業顛末記、今後の進路を決める先生方へのアドバイス等についてご寄稿下さい。